

# 復興推進委員会 現地調査結果報告

## 福島県における現地調査

実施日 : 平成27年8月19日(水)  
訪問先 : 福島県 新地町、相馬市、双葉町、大熊町、楡葉町  
参加者 : 伊藤委員長、菊池委員、中田委員、松原委員  
行程 :

- 新地町
  - ・相馬LNG基地
- 相馬市
  - ・相馬井戸端長屋 細田東地区 (災害公営住宅)
- 双葉町
  - ・双葉駅周辺
- 大熊町
  - ・東京電力福島給食センター
- 楡葉町
  - ・ここなら商店街、天神岬スポーツ公園、楡葉遠隔技術開発センター建設地

### 主な内容:

- ・新地町では、東北地方への天然ガスの中長期的な安定供給のため、海外からLNG(液化天然ガス)を直接輸入し供給する基地(建設中)を視察。
- ・相馬市では、景観と住みやすさに配慮した市営の災害公営住宅である 相馬井戸端長屋を視察。住宅内を実際に歩きながら、相馬市における災害公営住宅の整備・入居状況や、住宅の設計上の工夫(介護やコミュニケーションのためのスペースやバリアフリーなど)について説明あり。
- ・双葉町では、帰還困難区域である双葉駅前で、伊澤双葉町長から地域の現状と今後の復興構想(駅前の再開発、住宅団地の整備、新産業・再生可能エネルギーの拠点整備等からなる「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」)の説明。
- ・大熊町では、福島第一原発構内職員への食事の提供施設として東京電力が設立し、今年6月に本格運用を開始した 福島給食センターを視察。給食センターが福島第一原発の労働環境の改善や地元の雇用の創出に貢献している旨説明あり。
- ・楡葉町では3か所を視察。「ここなら商店街」では、今年9月5日に避難指示を解除した楡葉町の復興の状況の説明の後、商店街事業者と意見交換。  
楡葉町を一望できる高台にある 天神岬スポーツ公園では、除染仮置場の状況や洋上風力発電について説明。その後、楡葉遠隔技術開発センター建設地(福島第一原発廃止措置に向けた研究開発を行う施設として建設)を視察。松本楡葉町長が全行程に同道。

## 岩手県における現地調査

実施日：平成27年8月24日～25日

訪問先：岩手県 陸前高田市、大船渡市、釜石市、大槌町、宮古市

参加者：伊藤委員長、秋池委員長代理(24日のみ)、中田委員(25日のみ)、  
松原委員

行程：

- 陸前高田市
  - ・「りくカフェ」(先導モデル事業「『りくカフェ』を核とした健康コミュニティデザイン」)
- 大船渡市
  - ・大船渡地区(大船渡地区土地区画整理事業)
  - ・三陸サイコー商店会
- 釜石市
  - ・宝来館(旅館)
  - ・小野食品株式会社(水産加工業)
- 大槌町
  - ・「和 Ring-Project」視察  
(先導モデル事業「岩手県沿岸被災地における内職しごとと生き甲斐づくり」)
  - ・大槌町中心部(町方地区土地区画整理事業等)
  - ・大槌「心の復興」サポーター事業視察(心の復興事業)
- 宮古市
  - ・宮古市田老地区
  - ・「心のゆい」プロジェクト視察(心の復興事業)

主な内容：

- ・**陸前高田市**では、住民を対象に介護予防プログラム(運動・健康食・生きがいづくり)を実施しているNPO法人りくカフェが運営するコミュニティカフェで、NPOと意見交換。(先導モデル事業)
- ・**大船渡市**では2か所視察。大船渡地区では宅地・商業地の整備のための土地区画整理事業が進展。災害公営住宅、商店街、地元企業、公園などが集中した暮らしやすく魅力的なまちづくりを、民間ベースのまちづくり会社を中心に検討中。  
三陸サイコー商店会は、今年7月に岩手県内で初めて仮設店舗から本設店舗へ移行した商店街。震災以降の再建の経緯や今後の課題について事業者から説明あり。
- ・**釜石市**では2か所視察。旅館「宝来館」では、釜石市鶴住居地区の震災後の復興の経緯の説明の後、地域の復興と一体となった観光宿泊施設づくりへの思いを伺った。  
小野食品株式会社は、販路開拓等の挑戦的な取組により、震災前より売り上げを伸ばした水産加工会社。事業の選択と集中、顧客情報の管理など、震災後の成功の要因

や今後の課題について活発な意見交換がなされた。

- ・大槌町では3か所視察。一般社団法人「和 Ring-Project」が運営する木材加工の工房では、実際に作品を手に取りながら、今後の事業展開(木材加工の技術を磨き、人材を育て、生産施設を整え、販路を拡大する)について説明あり。

大槌町中心部(町方地区等)の復興まちづくりの状況を視察。広範囲で本格的な盛土工事が進展している一方、資材の高騰や施工関係の人材確保に課題。大槌「心の復興」サポーター事業を視察。被災者の女性からなるフラダンスのサークル活動を見学し、意見交換。

- ・宮古市では2か所視察。宮古市田老地区では、田老観光ホテル(震災遺構)、防潮堤及び防集移転整備事業、太陽光発電所を視察。

「心のゆい」プロジェクト視察では、仮設住宅在住の女性が、仮設店舗の工房で共同でのものづくり(和布を使った作品)を行う活動を見学。

## 宮城県における現地調査

実施日：平成27年10月14日(水)

訪問先：宮城県 東松島市、石巻市、女川町

参加者：伊藤委員長、岩淵委員、中田委員

行程：

○東松島市

・東松島市あったかいホール(先導モデル事業「東松島刺繍の街プロジェクト」)

○石巻市

・宮富士工業株式会社(溶接業)

○石巻市

・心の復興を目指す「イシノマキファーム & イシノマキマルシェ」プロジェクト視察  
(心の復興事業)

○石巻市

・石巻市水産物地方卸売市場

○女川町

・陸上競技場跡地災害公営住宅、女川駅(女川中心部地区土地区画整理事業)

主な内容：

- ・東松島市では、被災地女性の生きがいと雇用を創出する場となっている デンマーク伝統のクロスステッチ刺繍のサークル活動を見学(先導モデル事業)。
- ・石巻市では3か所視察。まず、地元溶接業グループの中心である 宮富士工業(株)を訪問。少数の高い技能集団である会社の概要、グループ補助金を活用した震災からの再建経緯、人材育成の取組等の説明の後、地元高校生への技術指導の模様を視察。  
イシノマキファームでは、仮設住民等が農地で農業技術を学ぶ就労支援プロジェクトを視察。運営事業者(NPO 法人)と意見交換。  
本年9月にオープンした 石巻市水産物地方卸売市場を視察。直線距離「世界一」たる880mを誇り、高い衛生基準を満たす最新設備の市場を見学。
- ・女川町では、陸上競技場跡地を活用した災害公営住宅を視察。「終の棲家」として住民の「生活の質」に考慮した設計となっている等の説明。また、女川駅前のまちづくりの状況を視察。湾口防波堤と階段状の市街地かさ上げにより、防潮堤を作らず防潮堤機能を持たせた海に見える町づくりが特徴。また、人口が減っても維持できるまちづくりを目指し、民間(まちづくり会社)に運営を委ね、テナント型・機能集中型のまちづくりを計画。以上、須田町長より説明あり。